新年明けましておめでとうございます。

宮崎県防衛協会宮崎支部の皆様におかれましてはご家族お揃いで、輝かしい新年をお迎えの事と、衷心よりお慶び申し上げます。

昨年の安全保障関連3法案の成立に引き続き、今年は参議院または衆参ダブルかが焦点の選挙イヤーになりそうです。

そしてそれらの帰結するものは「憲法改正」に外ならず、今年は正に我等の悲願でもある憲法改正の正念場と云っても過言ではありません。

今年は憲法改正に至る経緯について支部長通信の中で逐次情報を提供して参りますので、皆様も大いに関心を持って「憲法改正」への更なるお力添えを伏してお願い申し上げます。

さて今年の支部長通信も小川和久先生の「SRIIC」から抜粋した記事を掲載いたしますので、何卒ご一読頂き、ご意見など賜れば幸いです。

・朝鮮語ができないのに北朝鮮に潜入？

ロシアの軍事的介入が**シリア**のアサド政権の対反政府勢力や対イスラム国（IS）の戦いで効果を上げているのを無視できなくなってきたのでしょうか、**米国のオバマ政権も少し本腰**を入れはじめたようです。

＜米大統領＞ IS掃討作戦で**特殊部隊**最大50人派遣を承認

「米政府高官は30日、過激派組織『イスラム国』（IS）掃討作戦の一環として、オバマ大統領がシリアへの最大50人の特殊部隊の派遣を承認したと明らかにした。IS戦略の立て直しの一環で、**シリアへの米軍地上部隊の派遣は初**めて。米軍の地上作戦拡大を示すもので、戦闘の激化を招く恐れもある。

米政府高官によると、**少人数の特殊部隊**はシリア北部に配置される。重要目標である**北部ラッカの攻略**に向け、軍事顧問として**反体制派を地上で支援**する狙いがある。米メディアによると、オバマ大統領は29日に地上部隊の派遣を承認。同高官によると、トルコ南部の基地に複数の対地攻撃機A10とF15戦闘機を派遣することも了承した。

オバマ政権はIS掃討のためイラクに派遣した軍事顧問団と同様に、シリア派遣部隊の任務も**反体制派の作戦支援や米軍による空爆の誘導などに限定**するとみられる。オバマ政権は『長期の大規模地上戦闘作戦を行わない』としている。

シリアでのIS掃討作戦を巡って、オバマ政権は**反体制派の訓練・育成を断念し、ISと戦う反体制派への武器供与**に方針転換。イラクと合わせ、空爆と地上作戦の強化を打ち出している。ISが首都と主張するラッカの攻略には、地上部隊の派遣が不可欠と判断したとみられる。

米政府高官によると、シリアへの特殊部隊派遣のほか、**イラク**のアバディ政権と、**IS幹部を標的とする特殊作戦部隊の創設**について協議する。IS対策のためヨルダンとレバノンに対する軍事支援の強化についても承認した」（10月31日付け**毎日新聞**）

こうした報道が行われ、「**特殊部隊**」という言葉が見出しに躍るようになるほどに、日本国内ではまるでひとつ覚えのように「**北朝鮮**に自衛隊の特殊部隊を投入して**拉致被害者を救出せよ」という声**が聞こえるようになります。

拉致被害者の帰国はもとより、調査すら進展しない現状への苛立ちは理解できますが、ことはそう簡単ではない、いや、むしろ**不可能に近**いことは知っておいてもらいたいと思います。

まず、自衛隊の特殊部隊で米国のグリーンベレーや英国のSAS（陸軍特殊空挺連隊）に近い水準にあるのは**陸上自衛隊の特殊作戦群**だけですが、人員は**300人**ほど。そのオペレーションを支える態勢は、**情報収集**に始まって**皆無**と言ってよい状態です。

警察の特殊部隊**SATや海上保安庁のSST**は、それぞれ精鋭を集めているとは言っても、**軍事的**な作戦行動を前提とした**組織、装備ではありません**し、訓練も警察の特殊部隊のもの以上ではありません。

それだけではありません。**米軍自身が北朝鮮での特殊部隊の活動は容易ではないと**いうことを明らかにしているのです。

おなじみ西恭之氏（静岡県立大学特任助教）は2014年1月22日号のミリタリー・アイに、米陸軍特殊部隊**グリーンベレー**が2013年、**韓国軍**とともに北朝鮮に潜入し、反政府ゲリラを組織する想定で**合同演習**を行った際、演習に参加した2人の大尉の以下のような指摘を紹介しています。

1）北朝鮮では対空火力の脅威が大きいので、Aチームが**ヘリコプター**で移動できるのは、北朝鮮へ**潜入する際の1回**に限られる。

2）朝鮮人民軍には通信を傍受する能力があるので、Aチームは上級部隊の**指揮を受けることができず、**独立して行動しなければならない。

3）隠れ場所のない禿山が多いので、**移動は夜間の徒歩**に限られる。そのうえ道路が少ないので、政府側は1カ所の検問所で広い地域を統制できる。

4）敵と接触した場合、砲兵と航空機の**火力支援**も、地上の即応**救援部隊**も、直ちには**期待できない。**

5）**負傷者をヘリで移送できない**ので、できるだけAチームが治療し、秘密裏に移送しなければならない。

これを見るだけでも、北朝鮮の弾道ミサイルを発射前に攻撃するためや拉致被害者を救出す

るためといっても、**特殊部隊を北朝鮮で行動**させることがいかに**困難**かわかるでしょう。

日本国内の**特殊部隊投入論にとどめ**を刺すようなコメントもあります。

高英起氏（デイリーNKジャパン編集長）による10月31日の論考「**自衛隊は絶対に『拉致被害者』を救出できない**」です。関係部分だけ紹介しておきます。

「（前略）仮に北朝鮮の軍を空から攻撃しなければならない情勢になれば、まず間違いなく、韓国空軍や米軍（空軍・海軍・海兵隊）が動くだろうから、航空自衛隊に出番があるとは思えない。

陸上自衛隊が北朝鮮に進出する可能性はゼロに近い。理由は簡単だ。**朝鮮語**（韓国語）が**分からない**からである。

もちろん、自衛隊でも一部の人員に語学の訓練を施してはいるが、北朝鮮で現地の人々と十分なコミュニケーションを取れる人材はほとんどいないだろう。**捕虜を尋問できる人間**など、文字通り**ゼロ**ではないだろうか。（後略）」

同じ問題は、北朝鮮に関する**日本政府**を挙げての**情報収集**にも潜んでいます。

米軍のように韓国軍が協力するなら朝鮮語の問題は少しは改善されると思いますが、いまの両国関係では**韓国軍**が「日本軍」に**協力**することは**考えられません。**

このような現実に目をつぶってきた結果が、いまだに**拉致被害者の安否情報をつかむことすらできていない現状**だということは、忘れてはならないでしょう。　了

北朝鮮による拉致問題も何の進展見ぬまま越年し、威勢の良いことを云う輩は沢山いるようですが、以上のような現実問題に目を向けるとき、我が国の為政者は本当に国民の安全や生命財産を守る意志と、その準備を怠りなくしているのか甚だ疑問に感じられます。

我々防衛協会青年部会としても、国際関係に基づくパワーオブバランスや自衛隊の真の実力を客観的に知った上で発言をしていく必要があるようです。

来月13日は櫻井よし子氏を講師にお招きし「美しい日本を守るために」の特別講演会をシーガイアサミットで開催予定しており、その入場券を同封致しましたので皆様お誘い合わせの上、会場へお運び頂きますよう重ねてご案内申し上げます。

本年が皆様に取りまして素晴らしい一年である事を心より祈念申し上げる次第です。

平　成　２　８　年　１　月　１　日

宮崎県防衛協会青年部会　宮崎支部長　小　倉　和　彦